（十五日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料　一行三十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

高月集（第十二集）

「菫」

植林の鍬のがれたる菫かな　一夢
春雨に菫危し土手崩れ　揚臺
桃矢の心にほしき花すみれ　瀧堂
馬の口菫むざ〳〵かみにけり　揚臺
一株の菫咲きけり芭蕉塚　瀧堂
踏むは惜し摘むも又惜し野の菫　閑月
汗ばみし手に握りゐる菫かな　天仙
あせみちにほこりがに咲く花薊　曉美
犀顔の薊あぶなし鰐が淵　瀧堂
薊咲く野路を牛の悠々と　揚臺
薊野に坐りて友と語りけり　天仙
戀衣綻ぶ岡の薊かな　一夢

「春曉」

春曉やろかひのきしる渚かな、　揚臺
河沿ひの春曉や花白き家二軒　曉美
春曉の檜山に殘る月淡し　天仙
春曉や五重塔浮く靄の海　閑月
春曉の夢に入る鐘ありにけり　一夢
春曉の棧橋を越す潮かな　天仙
柳絮めぐむ客舎に聞くや曉の鐘　瀧堂
春曉や花ちらし行く明烏　曉美
春曉や靄の中より大原女　閑月
春曉や流石靜けき都かな　一夢
春曉や巨船錨を揚る音　天仙
春曉の驛に急ぐや月朧　揚臺

靈と肉 □□□（五）

平時代の思ひ出

長岡加登晴

恩師

救世軍中佐矢吹幸太郎先生今は大佐は私の恩師である。高力松の下で薫陶を享け救世軍士官となるを得たのは先生に由る必頗る多い。先生は私を愛して呉れた。私は先生を常に尊敬して居た。先生は山室軍平先生と共に日本救世軍の草分け時代からの老將軍である。

老て益々盛ん、私は新潟で先生を招聘して大講演會を催したことがある。その時私は救世軍老將軍矢吹中佐來る！と廣告紹介した。催は大成功に畢つたが先生は「君、老將は餘りひどいぜ！僕は年ふる毎に若くなるつもりなんだが？」と語つた事がある。

先生は非常によく働かれた人である。救世軍人は馬車馬のごとく働き仙人のやうな生活をするのがモットーなさうな、だが先は仙人にはならなかつた。仙人にはならぬが俗面にたいて聖人であると言つてさしつかへないと思ふ。

人々が救靈戰だ！聖潔だ！と絶叫して時にも尚異裸になつて「エンヤ！エンヤ！」とかけ聲と共に奮浚様なんと見ても好々爺だ

そうかと思ふと悠々優々閑々と骨どうをいぢくり廻してゐる會津若松で骨どう屋の店先に暫佇んに種々眺め「君救世軍士官でも骨どう品を手にする位の目がなくてはならぬ——人間なんて皆骨どうだから骨どうを見る目で人間を見て行くのだよ」と言つたことがあた。又「我々は好きなものも仲々手に入れて玩ぶことが出來ぬ。だから時折こゝに來てこうして眺めて居給へ。自分の家にあるのもこゝにあるのも大した違はないよ」とも言つた

「一輪明月照白骨」と大書した軸が私のスタデーの床に懸つてゐるが當時の先生が私に書いて呉れたものだ。私は先生がたまらなく好きだつた。

おでん屋ののれんくゞるまじき先生　氣分か逆も好きだつた。こうした氣分で過せるなら私も救世軍に逆ていゝ。だが私は救世軍をやる以上どうしてもかうした雰囲氣の中に這入れなかつた。

好きな恩師が外遊から歸つて私に嘆いたことを耳にしわらんぢの紐解くまもなく直ちに一書を呉れた

——拜啓仕り候、御多祥奉大賀候、小生も無事歸國仕り候間御安心被下度時に承り候へ者當時英氣を御養ひ居らるゝよし其も結構に候へ共今や晉に大切なる時期に有之候。何とぞ奮起遊され度種々な事情も有之候べくと存じ候。され共過去は過去として葬らしめよ。唯前途遊ばされ度殊に貴兄は貴兄とした使命を受け居られ候ゆに候へ者これを避けるべきにはあらず候カルバリを理想とせし貴兄か（これは私のペンシーム髑髏を承知してゐた故髑髏即ちカルバリ）今や眞にカルバリ山の眞意を發揚なさるべき大時機に候何卒好模範を内外にのこされ度候快談の祈を奉待候

私はこの書面に接し又々先生の愛心にほだされ惱み苦しんだ、誠の使命が救世軍士官たらんとせば何故にもつと矛盾のない眞の神の使者となり得ないか。神に逆ひつゝあるのか？神の攝理に從ひつゝあるのか？私は解するに苦しんだ。凡はエキスプレッションなんだユダヤの百姓のせがれヨセフがエジプトの宰相になつたのも。[illegible]のドマンが大救靈者となつたのも宗教家が女郎買ひするまで墮落するのもみな神の手にあるのだ。運命なのだ。さだめなのだ。私は神の手に一切をゆだねて只幾分でも眞面目の生活を送らうとする。

神は信ずる、無條件に信ずる、だが矛盾生活を送らねばならぬ傳道者にはなれぬ、神なき生活を送り乍ら二十年間も傳道するなどゝの矛盾を平氣でなす勇氣は私にはない。私は有りのまゝの生活を好むのだ。

明日の吉凶

四月曆　舊八日
五月曆　新十六日

▲一白　迷ひの淵に沈むより氣を晴れ〳〵と持つべし
▲二黒　遲るとも躓かざるやうに靜々と進むが勝ち
▲三碧　生氣盛んなる日ゆへに氣を揃へてはげむべし
▲四綠　心靜かに萬全の策に向つて進めば吉日たり
▲五黄　報ひ少くとも陰忍して時の來るを待つべし
▲六白　油斷するときは意外の失敗を生ずる注意肝要
▲七赤　進むこと七分守ること三分なれば間違ひなし
▲八白　乘出すべき氣運の見えて居て足の進まぬ日
▲九紫　人の爲に勞を惜まざれば餘慶自ら集まる

講談

幕末[illegible]

（233）渡邊默禪作　宮野歌春畫

此夜はいつになく淋しかつた。沙上の偶語秋の霜にも姿みはてたねくら葉のやうに幾んど元氣といふ元氣をむしり取られた城兵は力なくそこここに寢轉んで絶望の色に大空の月を仰ぐ。乾坤寥廓夜をいましむる喇叭の聲も立たず海から吹き上る水蒸氣の中に夢の如く更けて行く。梶原は刀を手にして奉行屋敷に忍び込んだ。その本の部屋は樓上の一室守る人もなく照る灯もなく冷い月の光が流れ込んでゐる室目蒐けて拔足しつゝ進んだ。

「コレ、何を爲さる、コレ總督何でここへやうな事をなさるッ」

「あ大塚か、放せッ覺悟の死だッた放しなされッ」

「いゝや放す譯には參らん何故の御自害でござるかそれをれ話しなされ、そ、その仔細を承る迄はいつかな放すことではござらん」

低い聲だが慌てた、力のこもつた沈痛の調子で必死と爭つてゐるのが洩れて聞ゆる、梶原は目を瞬つて、扉の陰から覗き込んだ。微暗い月明りにぼんやりと映し出された人影、榎本の手に握られた白刃を誰やらが奪ひ取らうとして一生懸命に引止めてゐるのであつた。梶原は猶耳を澄して樣子をうかゞつた

「あ、あなたは一同と死生を俱にすると被仰つたではありませんかそ、その舌の根も乾かない中にこ、この有樣は何事です先に死ぬのはそりや卑怯だ、腑甲斐がない何故一同と一緒に死なんのですか、さア刀をお放しなさい」

始みて解つた、止めてゐるのは彰義隊長大塚嘉久治だ

「如何にも腑甲斐ない卑怯にあらうが、是まで多くの味方を殺したのは、皆私サ軍令軍令の下に此の榎本が殺したのであるから今日は私が皆に代つて死ぬのだ榎本が生きてゐては、却つて同志の誤解を招く榎本の心事を疑はれる死んで潔白の精神を示したなら皆の者も台點が參るであらう禁廷も苦衷を御察しくださるであらう。さ離せ、放して死なしてくれ」

「イヤ不可ません」

「止めるなッコレ」

双方挑み合つてゐる中に白刃を素手で握つた大塚の左の指がゑの本の力にはづみを喰つて五本ともばらりと切れた。

颯と迸る血汐と共に大塚はアッと叫んだがそれを離したが最後柱とも礎とも頼む一軍の司令官、幕末の名將たる榎本の腹へずつぷと其の刃が躍り込むのである此處一大事命にかへてもと大塚は齒を喰ひしばつて苦痛をこらへた

「むむう——」

呻く聲の下から冷い汗が玉走る

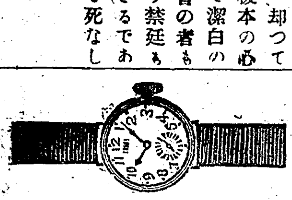
「や、大塚氏、け、怪我をッ……危ないた引きなされ」

ゑの本は驚いたが猶刃をすてぬ

梶原は見るに忍びなくなつた、どどッ遽しい足音もろとも路けるやうに馳込んで弄々とゑの本の肱を抑へ

廣告

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番



優秀なる最新型腕卷時計

蓄音器　眼鏡　各種レンズ　各國時計　ダイヤ　指輪　装身具
鐵道省御用
クジヤク印蓄針特約店
金光堂時計店
平町五丁目　電話七三六番

貴金屬御注文製作品早く良く奉仕的特價に致します

營業種目

內地材　材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達請負　其他

㊣ 佐藤材木店
常磐線平町新川町　電話三三五番

釀造元　清酒　世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
吉 清水屋
小野晋平
電話六番

初夏
本年流行
◆婦人洋傘
◆ワイシャツ
◆ネクタイ
各種

に ツルヤ
平町四丁目　電一四〇

夜間診療

胃腸　內科　十二指腸虫病　專門　內科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部

松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

內科、小兒科（院長每日診療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
內科部長　醫學士　中西林藏
外科一般
外科部長　醫學士　氏家憲介
每日曜手術　醫學博士　桂重次
産婦人科、女子泌尿科
産婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治

御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）
一病氣相談所（共濟病院內）
一救療所（共濟病院內）

◆看護婦見習募集
磐城 共濟病院
平町電話六四一番

器械新設
体溫計無料撿査

皆様の御手元まで御覧に入れました引札の如く今回最新優秀なる撿定器を設置し無料で撿査いたしますから御遠慮なく御持來を願います

（撿査日）毎月十日

指定販賣所
平町二丁目
西村屋藥舖
電話三番

スッポン飴　一圓　三圓
スッポン酒　二圓
スツポンヘモクロビン錠　三圓

平町五丁目角
山野邊藥局

健康第一
健康は胃腸から

ホシ胃腸藥

クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪

郡下各町村に亘り 現地農業講習
理想農郷の建設に 郡農會の新事業

石城郡農會では疲弊しきつた農村財政を救濟し猶ほ振興を計り將來を期して理想郷化所謂石城の丁抹村を建設すべく種々努力してゐるが將來中堅たる農民を養成するには現今の青年をその任に當らしむるものであると一昨年より同會主催にて中堅農民講習會を開き相當成績をおさめて來たが今年は來る六月上旬より郡下各村に於て現地講習なるものを實施し農業の學理と實際を講習する筈である講習豫定地は泉村、大浦村、小名町、玉川村、平窪村、神谷村、勿來町、錦村、平町で猶ほ來年の二三月の農閑期を利用し特殊講習會■運篇講習會を開催する筈で同會では盛んに理想郷實現に努めてゐる

販賣組合會 けふ舊郡衙で

石城郡販賣利用組合役員會は今十五日午前十時から平町元郡役所内に於て開き左記事項について協議をなす

▲本日現在組合財産狀況報告の件▲市場開設準備に關する件▲事業資金融通に關する件▲蔬共同出荷者に對し運賃補給に關する件▲其の他經營上主要なる事項

復た躍起になつて 官行製炭に反對
此の二十日頃に決する 木炭業者の死活

石城郡貝泊村に於ける官行製炭事業開始計劃について地元郡南方部製炭業者が主催となり濱三郡木炭同業組合が懸命となつて反對運動を試みた結果、一時事業開始は沙汰やみとなつたが石德から貝泊に通ずる村道開鑿事業も完成し目下軌道敷設工事中なので此の軌道敷設後直に豫定通り官行製炭事業を開始するに至るのではないかと地元製炭業者は生活を脅威される大問題だとして其の成行きを憂慮して居るが事業開始をするか否かは來る二十日頃に決定するであらうと觀測してゐる事業開始と決定すれば再び猛烈な反對運動が起きるものと豫想されてゐる

平町凍氷組合

平町凍氷組合總會は十三日午前十一時から平館に於て開催したが當日湯本町凍氷組合でも同町三函座に於て同樣總會を開催した、平署では凍氷販賣の期節となつて來たので係官が出張して衛生講演をなしそれと組合員の健康診斷を行つた

諏訪神社の 大祭 今日から執行

石城郡渡邊村の中釜戸に鎮座する諏訪神社の大祭は十五、十六の兩日盛大に行はれ隣村泉村下川海岸に至る神輿の渡御は供奉の道行頗る古雅で古の大名行列に同じく露拂ひの奴の手舞が即ち釜戸の奴と稱して知られるもので同祭典費は數百圓に上るものと云はれ沿道二里餘は堵を築く遠近參觀者に數萬に達するを例とされてゐるが本年も天候次第で相當の賑はひを見るであらう

平町信用事務

石城信用組合聯合會平出張所の事務檢査は十四日午前十時より中央金庫鹽田主事、縣小松農林主事が來平檢査を爲した

鰹群瓜の見ゆ
磐城丸四千尾を捕つて 磐城濱活氣つく

磐城七濱の鰹漁期も目睫に迫つたので小名濱の水產試驗場では先に第一回漁場調査のため磐城丸を八丈島附近に出勤せしめたが荒天のため調査を妨げられ充分の調査を行ふ事も出來ざる狀態であるが十二日附の報告に依れば午後に到り魚群多きも餌付は尚充分ではなく只潮流の關係で本縣沖には近づいてゐないらしく靜岡縣燒津漁業組合より無線電信によれば青ケ島附近において十二日既に一隻四千尾を捕獲した由で天氣の恢復と共に日ならず漁群の襲來を觀るべく各部落共前景氣をあほつてゐる

平管內の盜伐

平營林署管內立木盜伐が非常に增加して來たので同署では取締を嚴重にしてゐるが監視の隙を見ては時々盜伐をやるので少からず手古摺つてゐるが今後は發見次第山林法に依つて嚴罰を課する方針であると

河邊巡査榮轉

平署內勤巡査河邊富壽（元姓佐川）氏は十三日附縣警察部特高課に榮轉十七日午前九時廿五分で赴任するが在平六ケ年の古い顔であつた

諏訪祭典列車 時間割左の如し

別項石城郡渡邊村諏訪神社の祭典に付き明十六日平高萩驛間の臨時列車の發着時間割は次の如し

△（平發）午前八時（勿來着）八時四十分
△（平發）午前十時十五分（高萩着）十一時二十七分
△（平發）午後二時（勿來着）二時四十一分
△（平發）午後四時二十四分（泉着）四時四十七分
△（平發）午後六時二十分（勿來着）七時
△（勿來發）午前八時五十五分（平着）九時四十四分
△（高萩發）午前十一時五十七分（平着）午後一時八分
△（勿來發）午後三時五分（平着）三時五十五分
△（泉發）午後五時二十分（平着）五時四十分
△（勿來發）午後七時三十五分（平着）八時二十五分

運炭夫即死 トロ脱線し 一人は重傷

石城郡磐崎村大字藤原三井炭礦運炭夫茨城縣久慈郡金里村大字中品生れ黒羽金藏（三三）は十四日午前五時半頃石炭を積載した曳車九臺を連結して坑外電氣捲上で上昇中車輪が脫線しその儘進行したので炭車に挾まれ腹部を壓縮即死した平署では同日屍体の檢死をなした

無籍地調査 國有財產整理 平稅務署で

平稅務署管內には國官有地でもなく私有地でもなく土地臺帳に登錄されて居ない無籍地が今なほ相當にあり殊に山間方部に非常に多く散在して居り然もこれ等の無籍地の便利な箇所は殆ど開墾されてゐる狀態であるが何時までもこのまゝに放任して置くことは國家に取つて非常な損失となるのでいよいよ昭和四、五の二箇年繼續事業として同署管內國有財理特別調査を爲してゐる

支那事情講演 草野氏が磐中で

石城郡出身にして在東京、アジア新報並に雜誌「東半球」社長草野馨氏は歸郷中を機とし十四日午後一時より磐城中學校に於て支那の國民性と歷史の經過について約二時間の講演をなした

郡下養蠶況 變態氣候に惱む

石城郡地方の桑園は一小部分を除き霜害の厄は幸ひ免れたが併し過般來梅雨時のやうな變態的天候に禍ひされてゐる關係から養蠶家は何れも掃立を急いでゐるがそれがためいよいよ完全なる桑葉を支る譯に行かぬ結果何れも或程度迄飼育上支障を來してゐるものゝ如く見られ從つて掃立方の成績も非常に憂慮されてゐる

火保率引下運動
更らに第二次交渉に 伏見町長等上京

大日本火災保險協會か突然平町の火保率引上げを斷行したので平町では直に關係代表者會議を開き協議の上引下げ運動を起し井上消防組頭は上京平町の消防訪備その他につき詳細・説明し平町の火保率引上げはその意を得ないものであると强硬に引下げ交渉をしたが結局有耶無耶となつたので平町の特殊建物である小學校は他の不協定會社に契約を變更しその他一般加入者も色々迷つてゐるため町當局としても捨ておけず近く伏見町長、井上消防組頭等が上京して第二段の交渉をなす由である尙これと同時に伏見町長は目下問題となつてゐる平町大工町踏切の通行人立往生の寫眞をもつて鐵道當局に地下道實現の陳情をも併せてなす豫定である

悲壯な決意を堅め 井上氏敢然出馬
後進馬目氏に地盤を讓り 已れは玉碎主義

平町々會議員選擧は餘す處僅か二週日に接迫した今日正氏立候補の届出をなしたもの僅か二十名を出でず明十六日（大安日）には正式屆出をなすもの數名に達する見込であるが肝腎の本通りたる一丁目より五丁目迄は各町內とも候補難に陷り遂ひには城空け渡しの外あるまいとさい觀測される

悲觀の狀態にあること本紙昨報の如くであるが五丁目では十四日午後二時より吉田屋料理店に豫選會を開き候補者選衡につき協議した、之れより先き五丁目は隣接大工町と一致の行動を採り前回には井上茂作、星野淸吉の兩氏を當選せしめたる先例を有し今期選擧も右の方針によつて進めたき兩區民大体の意嚮を有し這般區民有志會を開いたが區民の有力な意見は井上氏の如き町會の大御所を失ふ事は遺憾に忍びないとして極力推薦したが井上氏は絶對に固辭し星野氏また容易に

應諾せず 結局馬目武之助、多田井笑次郎兩氏に白羽の矢を立てたけれども多田井氏は徹頭徹尾井上氏擁立を主張して讓らず昨日の豫選會に移つたが當初頑強に固辭せる井上氏も町民多數の懇望もだし難く起意を堅めるに至つたが從來二名を有してゐた同方部に自已のみを以て滿足するは區民の期待に叛くものであるとの意から新進馬目武之助氏を推し同氏を五丁目の公認候補とし大工町と共力氏の當選を期する事となつたが井上氏は公認とは謂ひ地盤を

後進馬目 氏の爲めに讓り已れは玉碎を覺悟の上全町各區に亘り僅か死の所謂落ちこぼれの同情により當選を期すべく悲壯な決意に立馬を承諾したが氏の町治に對する實力と熱誠とは既に全町民の均しく認める所あり殊に今回立候補の動機とその立場に同情する町民の數も相當にありとは雖も猶ほ苦戰のほどを察せられてゐる

三森氏擁立 三丁目の空氣變る

三丁目は這般の豫選會で柏原幸次郎氏を擁立する事に決し委員を擧げて屢々交涉したが柏原氏は健康その緊に耐えずとの理由で絕對に承諾せず結局城あけ渡しの外なき窮地に陷つたが柏原氏その他有志間に三森虎雄氏を擁立せんとするものあり或は同氏に決するかも知れぬらしい

千葉氏善戰 有志推薦狀發

才槌小路より公認された辯護士千葉彦治氏は酒井喜代正氏を事務長に怠りなき戰備に努めてゐるが同區よりは既に強敵吉田吾平氏を初め緑川喜三郎氏の出馬を見るに至り淺からぬ緣故の田町からは野崎滿藏、齋藤敏實の兩雄あり既に地の理に於て不利益甚だしく若し氏を落す樣な事があつてはならぬと新田目善次郎氏外有志は推薦狀を發し極力當選を期する事となつた

高橋氏奮闘

白銀町大半結束 白銀町公認高橋龜松氏は未だ正式屆出ではせないが既に戰闘開始の手筈を定め地元白銀町區民も大半結束して氏の當選を期する事となつたが氏は前回町議選に出馬し同志の爲め雄々しき犧牲となつた關係もあり且つ氏は種々諸般の問題に精進する熱誠の人丈今度は落してならぬと云ふ同情の聲が可成りに高いから大体は安全と見られるも猶ほ幾多の努力を要するものの如し

佐々木氏 隱れた實力絶大

在平請負業者を代表して出馬した佐々木健一郎氏は前澤文太郎氏を選擧事務長に寧日なき奮戰をつづけてゐるが流石請負業者の結束した後援と氏の隱れたる實力とは各町區とも相當の味方を有し意外の實勢力を示し更らに一段の緊張を怠らねば當選稍々確實な有力候補として望まれてゐる

大森氏努力 南町有志の一致

南町區民から熱誠なる推薦に動かされ遂ひに起意を堅めた大森勇氏は既に町議としての實力試驗に萬點の成績を收め町民の衆望篤く氏の出馬を聞くや南町區民を初め有力な味方が多くただ幾分立ち遅れの爲め相當の努力を要するものの如く南町區民は自重他戒を專らに猛然起つて氏の當選を期してゐる

國府田氏 熱心な區民の努力

鍛冶町の豫選會で出席六十餘名萬場一致を以て公認した區民の結束と熱心に動かされ敢然出馬した國府田直良氏は吉田由三郎を初め選擧に老練な手腕と實力ある吉田伴吉氏等外全區民の熱心な活動と藝妓置屋組合料理店等有力な應援があり國府田氏の德望人格と相俟つて隆々の勢ひを示してゐる

平町會議員 候補者一覽
本日迄の屆出分

平町會議員候補者として本日迄で平署に正式屆出をなした者の氏名、職業並に選擧事務長氏名左の如し

候補者	年令	職業	選擧事務長
宇佐美友二郎	（三三）	藥劑師	同人
野崎滿藏	（四九）	藝妓屋	未定
柳下元吉	（五一）	製板業	未定
石山治三郎	（五〇）	建具商	未定
馬目雅治	（三四）	凍氷販賣業	金子政道
根本品藏	（四四）	米穀商	佐藤源五郎
吉田寅之輔	（四二）	縫紋業	長谷川伊左工門
吉村安次郎	（四三）	製綿業	屋島熊輔
吉田五平	（五三）	材木商	堀喜一
千葉彦治	（三八）	辯護士	酒井喜代正
荒川淺次郎	（四六）	建具商	未定
佐藤岩次郎	（五五）	雜貨商	未定
荒川恒次郎	（五一）	米穀商	青木甚平
齋藤敏實	（四八）	凍氷販賣業	未定
花澤兎五六	（六〇）	農業	叶多鉾治
加納五郎	（六三）	實業	未定
佐々木健一郎	（五七）	請負業	前澤文太郎

植田昭和會 佐糖濱に淸遊

植田町昭和會總會は十二日午後一時より事務所に開き諸事項協議の後一同同町佐糖海岸に淸遊を試み非常の盛會裡に三時散會した

鈴木家不幸 入院中長逝す

平町磐城實業銀行支配人鈴木源造氏嚴父鈴木治郎平翁は骨膜炎を病み新川町木村醫院に入院治療中の處十五日午前三時逝去したが氏は高久村屈指の資產と名望を有し村治の貢獻偉大なるものあり當年七十八才、葬儀は十七日午後二時高久村神谷の自宅出棺執行の筈

◆食傷した金魚のような小六が歯グキをムキ出して笑ひ出すので、通りがかりの人は可哀そうに陽氣のセイだなと思つてた◆「オイどうした」と聲をかけたら「アタイだちシャなのよ」といはれて其男が、ハテ解らない、內職に會シャのタイピストでもやつてるのか、それともシャンなのよと言つたのか、分らないがやつと思ひだしたナルホド藝がないからシャなのか甚だ以てシャばかりきまだ。

吉田眼科醫院

時評

玉碎を覺悟して井上茂作氏かん然厥起す、其の悲壯なる決意や如何に響く

□

平町議候補「大吉」「先負」の暦を頼りに屆出で、た●●より無いこと夥しい

□

立憲民政黨公認候補」の立看板と並んで當選を逆しまに行く珍風景の一つ

□

郡農會、大がゝりな農業實地講習、理想や誠によろし

□

ただ頭味噌許りが太つて腕の痩せた百姓だけは作らないで戴きたいもの。

春の歡樂に 品質本位の 芳醇銘酒 白馬の鶴 どうぞ御用命の程願上ます
辰ノ口本家 平窪 松本德一 電話（平）七五二番

植田町本町 前田醫院 …入院隨時… 電一二四番

英傑秀吉 連日滿員 謝恩週間 ◇十六日ヨリ八日間
◇日活瀧花久子主演作品 事故の爲本週に繰延ました事を御詫致します
ジャズ映畫 沙漠に陽が落ちて 全 アラビヤの唄 獨唱……島津正之 說明……若月柯村
◇松竹提供映畫 市川右太エ門主演 助演高堂國典、吉野露子
維新血史 高杉晋作 全 明治維新の騷然たる世相を寫し英傑の面目躍如として彷彿たり （說明 泉 天明）
◇日活超大作映畫◇ 河部五郎 酒井米子 主演
捕物覺書 八百藏吉 全 河部五郎映畫界引退最後の大作 助演葛木香一、尾上桃華 高勢實、花柳あやめ （說明石井孝）
爲謝恩 普通席金十錢 日活松竹映畫封切 平舘

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭 一、正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス 一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ(ツ)ノ玉炭 一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 (ツ) 阿部石炭商店 電話二三七番